

9/26

八雲がたびたび訪れた静岡県焼津の特産品、「黒はんぺん」や「ちりめんじゃこ」を使用した「焼津献立」



小泉八雲ゆかりの地献立

9・10月に市内の各学校でさまざまな「小泉八雲ゆかりの地献立」による給食が提供されました。こどもたちは食を通して、本市以外の八雲が滞在した国や地域など、八雲について学びを深めました！

※写真は9月26日に市長、教育長などが中央小学校を訪問し、こどもたちと一緒に「焼津献立」の給食を食べている様子です。

松江まちかど

ダイアリー



松江市PRキャラクター
おまつちえ

小泉八雲とセツの面白エピソード

その2

～八雲とセツのちょっとしたエピソードをご紹介します～



〈小泉セツと養母の稲垣トミ（熊本時代）〉
小泉家提供

小泉セツはなぜ養女に出されたの？

小泉セツは生まれてすぐ、遠い親戚に当たる稲垣家との約束で養女に出されました。そして稲垣家の両親が亡くなるまで一緒に暮らします。

しかし、小泉家と稲垣家はどのような親戚関係にあったのか。上士という武士の位ではトップレベルの小泉家から、並士という少し家格の低い稲垣家に、なぜセツがもらえることになったのか。じつは正確な記録はないそうです。

10月号に一部誤りがありました。お詫びして訂正します。
(誤) 特注の足袋→(正) 足袋

市報 松江

目次

- 02 松江市役所本棟移転後フロア図
- 04 松江まちかどダイアリー／小泉八雲とセツの面白エピソード
- 05 松江市長 上定昭仁の「上を向いていこう」／町自連だより
- 06 安居楽業／シリーズ松江の匠
- 07 松江の皆さんこんにちは。／マイレポート
- 08 高石さん、トミーさんインタビュー／連続テレビ小説「ばけけけ」パブリックビューイング開催！
- 09 子育ての日ファミリーイベント ぐんぐんフェス2025
- 10 松江しんじ湖温泉前に「多目的テラス」が完成！
- 11 中海スポーツパークオープン／12月1日から宿泊税を導入します
- 12 令和6年度の松江市の家計簿（決算）をお知らせします
- 17 令和6年度 ふるさとづくり寄附の実績報告
- 18 原発立地に伴う交付金の使い道
- 19 高齢者・障がい者などの避難支援
- 20 子育て・健康・福祉
- 22 令和8年度 認可保育所・認定こども園・幼稚園などの入所・入園募集が始まります
- 23 「松江市餅がプロジェクト」をご存じですか／情報ひろば
- 30 でかけてごしないイベント情報～

松江市ホームページ



防災メールに登録しましょう。
QRコードを読み取って、
空メールを送ってください。



商標について：QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

上を向いていこう

Vol.49



「市役所新庁舎 もうすぐ完成です！」

松江市役所は、令和3年1月に建て替え工事を開始し、令和5年5月に第1期工事が完成して新庁舎のおよそ半分の供用を開始しました。その後、第2期工事に取り掛かり、**来年5月のグランドオープン**に向けて着々と工事を進めています。

この10月には2期棟工事が完了し、11月から週末を中心に各部署の引越し・移転作業を行い、新庁舎内で順次稼働することとしています。市民の皆様のご利用の多い、市民部、こども子育て部、健康福祉部の窓口は、**11月25日(火)、新庁舎1階フロア**に移転・集約して**オープン**します。

また、松江の中心市街地や宍道湖が一望できる**6階の展望テラス**も、同じく**11月25日(火)**からご利用いただけますので、ぜひお立ち寄りください。

市役所に来庁される方の駐車場は、これまで通り、市役所東側の末次公園や西側の来庁者駐車場などが利用できるほか、**来年2月からは新庁舎の地下駐車場**がご利用になります。

同じく**来年2月には庁内1階にコンビニエンスストア**が、**来年5月には2階にカフェがオープン**する予定です。また、キッズスペースも設置する予定です。お子さま連れで来庁される際にご利用ください。



〈展望テラスからの眺望〉

〈新庁舎外観〉



これまで週末を中心に数々のイベントを開催してきた「**だんだん(d)テラス**」は、現在工事のため利用を休止していますが、グランドオープン以降に利用を再開し、さらに**パワーアップ**した楽しいイベントを企画しますので、ご期待ください。

市民のみなさんに気軽に立ち寄っていた**にぎわいの拠点**として、**松江市役所は「進化」**してまいります。みなさんのご来庁をお待ちしています！

※新庁舎への各部署移転後の配置については、本誌2・3ページに紹介していますので、併せてご参照ください。

町自連だより

会員への情報伝達手段に LINEを活用

川津地区自治連合会 会長 久保田 賢司 (くぼた けんじ)

川津地区は、43の単位町内会自治会と13の特別会員団体で自治連合会を組織しています。

また、連合会は、地区全体を単位とする「川津地区自主防災委員会」も組織しています。

会員数が多いため、大規模災害時には電話による情報伝達は難しく、令和2年10月に、メール機能を利用した「かわつ防災メール」を開設しました。しかし、操作が煩雑で配信が一方通行になるなどの理由から、思うように登録者が伸びませんでした。そこで令和6年度から通信アプリLINEの活用に移行しました。

LINEは広く普及しており、使い方も簡単で、写真や動画が送れるのに加え、双方向の情報交換もできることから、災害情報の共有

にピッタリのツールです。

今では避難所の開設や野犬の出没など身近な情報共有に積極的に活用されるようになりました。



〈防災訓練の様子〉

安居楽業

あん きょ らく ぎょう
のどかに暮らし、仕事を楽しむ



〈市HP(地域おこし協力隊)〉

vol.7



スポーツから地域へ！ コンディショニングで暮らしを支える

9期生 林 隼平
はやし しゅんぺい

協力隊の林隼平です！あつ

という間に着任して一年半が経ちました。私の出身は松江市で、高校を卒業してから資格を取るために大阪の専門学校へ進学しました。その資格が「アスレティックトレーナー」です。聞き馴染みの無い資格で、よく公園のアスレチックを補助する人と間違えられるます。

『アスレティックトレーナー』とは『安心安全にスポーツができる環境を整える職業』です。例えば、スポーツチームに常駐し、選手の怪我の予防、一刻でも早く試合や練習に復帰するためのリハビリを処方します。また、整形外科に勤務し、スポーツ選手や学生へのリハビリや怪我をしにくい体の使い方を指導したりする働き方もあります。私は前職で整形外科に5年間勤務し、日々そのような業務にあたっていました。スポーツ選手に関わる事が多かったのですが、来院される人は、慢性的な腰痛や肩こりをお持ちの人も多く、スポーツ選手以外の人も担当していました。そんな中、『スポーツの場だ

けでなく、働く場にも安心安全が必要ではないか？』と考えるようになりました。これが協力隊として新たなキャリアを歩み始めたきっかけです。同時に『松江に戻って仕事をしたい』という思いも重なり、昨年松江にUターンしました。

アスレティックトレーナーとしては『スポーツの場』、地域おこし協力隊としては『スポーツの場以外』という線引きを持って活動しています。『スポーツの場以外』というのは具体的に『デスクワーカー』『産後のお母さん』『地域の高齢者』などです。このような人々に『コンディショニング』を提供しています。コンディショニングとは、『体のコンディショニングを整えて良いパフォーマンスを発揮するための手段』をさします。ストレッチ、筋トレ、ヨガ、ピラティスなどを用いて、体のコンディショニングを良好に保ちます。日頃から良いパフォーマンスで生活できることは非常に嬉しいことだと思っています。デスクワーカーであれば、腰や肩周りのケア、産後のお母さんであれば、骨盤周りの整え方な

どをお伝えしています。活動を通じて『心の安心を提供したい』というのが私の思いです。それが、アスレティックトレーナーとして新たな可能性を生み出すことに繋がると考えています。今後は活動を広げ、『全世代がコンディショニングを受けられる場』を松江に作りたいと考えています。どこへでも出張します。ぜひご依頼いただきコンディショニングを体感してください！



〈高齢者向け膝・足の痛み予防講座〉



〈ビジネスマン向け姿勢改善講座〉

市は長年にわたり地域産業の発展に貢献された技能者を表彰しています。

シリーズ「松江の匠」

令和6年度松江市手作り産業優良技能者表彰

おおつか ひでゆき
大塚 英之
No.7

株式会社ホテル一畑(千鳥町)
(奨励賞 受賞)

推薦団体：松江調理師会

いしくら くにあき
石倉 国明
No.8

石倉造園(佐草町)
(奨励賞 受賞)

推薦団体：松江造園協同組合



匠はこれまでの経験で培ってきた技術・知識を生かして、これからも美味しい料理を作り、お客様に喜んでもらえるよう研鑽を続けていきます。

「匠はこれまでの経験で培ってきた技術・知識を生かして、これからも美味しい料理を作り、お客様に喜んでもらえるよう研鑽を続けていきます。」と話していました。

匠は小さい頃から家でハンバーグやコロッケを作るなど、料理をすることが好きでした。両親も調理師という環境で育ち、中学生の頃にはすでに調理師をめざすことを決めていたそうです。高校を卒業後、ホテル一畑に入社し、今年で勤続24年になります。和食調理の技法や作法を現場で学び、技術の習得に尽くしてきました。

匠は20歳の時、親が営む石倉造園に入社しました。父親を師として技術を磨き、昨年代替わりし代表に就任しました。

仕事の中でも特に気合いが入るのは、木を植えたり石を配置する造園工事だといいます。ひとつの空間をつくり上げる達成感があり、それを喜ぶお客様の反応にやりがいを感じています。また、「この庭をどうしたらいいか」という相談には、今ある庭の良さを生かしつつ、管理しやすく整った空間になるよう、知恵を絞って提案をすることにも面白さを感じています。

匠の考える『職人』とは何かを問うと、「自分の色を出せるようになること。人に認められるかどうかは別として、自分らしさを表現できることが大事だと考えている。この人にしかできないと思われ存在が、『職人』なのではないか。」とのこと。匠は「木を植える喜びをもっと多くの人に伝えていきたい。」という思いで、日々の仕事に真摯に向き合っています。



〈松江の匠HP〉



〈受賞者紹介動画〉

松江の皆さん こんにちは。



野 博也

1957年4月生まれ。内中原小、松江一中、松江北高、大阪大学人間科学部卒業。サントリー株式会社入社。シニアソムリエ、剣道教士七段、近畿双松会副会長、近畿松江会会員。神戸市在住。

私が生まれ育ったのは、内中原町。家の裏は畑で、そのままお城の外堀まで繋がっていました。川まで行くと、向こう岸は黒田町で、当時は今のような商業施設はなく、田んぼが広がっていました。子どものころの遊び場はお城で、亀田橋を渡って椿谷から、城の石垣登り、馬場池のザリガニ釣りを楽しんで、今でも夢に見るほどです。中学は赤山の上であり、小泉八雲旧居に交代で掃除に行っていた事を覚えています。高校は自転車通学で、亀田橋および椿谷を通って県庁前、一畑百貨店の前を走って川津の校舎まで通っていました。殿町は百貨店を中心に賑わい、茶町や京店も近く、その辺りでたむろしていたことが懐かしいです。

2回はやっており、ライフワークになっております。大学卒業後はサントリーに就職しました。大阪・京都、神戸、静岡、名古屋を転々としたのは大阪で、主に営業畑でした。サントリーの中心はビールとウイスキーだったのですが、87年にソムリエの資格を取りワインにハマってしまい、ワインの営業を長くやりました。

近畿松江会にご入会ご希望の人はご連絡ください。

〒543-0014 大阪市天王寺区玉造元町2-34 東洋軒ビル4階 竹谷設計事務所内 近畿松江会事務局 ☎090-3054-9159 (竹谷)

まちをよくする マイルレポート

また八雲が歩きはじめるまち

一般社団法人八雲会

内田 融



NHKの連続テレビ小説「はけはけ」のおかげで「小泉八雲とセツが出会ったまち・松江」という標語を、市内いたるところで見えるようになりました。10年も前ですが、市で策定された「まちづくり構想」長期ビジョンのサブタイトルなどに「また八雲が歩きはじめるまち」という標語が使われて、嬉しく思ったことを思い出しました。

一般には「小泉八雲」がほとんど知られていなかった大正4年に、現在の小泉八雲旧居の持ち主であった根岸磐井（ねぎしいわい）を中心とする人々によって、「八雲会」が創立されました。いま私たち「八雲会」の前身です。当時の根岸磐井と八雲会の思いは「旧居の永久保存」と「記念館の設立」でした。

昭和40年に再出発した「八雲会」では機関誌「へるん」を年刊で発行しています。1冊丸ごと小泉八雲本。全国の会員などから寄せられた小研究・エッセイを掲載しています。学術的・専門的なものではない、ささやかなものながら、八雲とその周辺についての小さな新発見、新しい視点を発表・発信し続けてきました。今年は62号を発行しました。毎号約10編とすると600件以上です。「また八雲が歩きはじめるまち」というフレーズは、八雲の思いを理解し生かし、将来に残したいというメッセージだと思っています。「へるん」を発行し続けていることは、これに少しは貢献しているのではないかと自負しているところです。



〈西田千太郎旧居〉